

観光に一層力を入れている北京市

北京事務所

中国の首都北京市は 3000 年以上の歴史を持っている古い町で、中国の文化、経済の中心地であり、また万里の長城や故宮等五つの世界遺産を有する国際観光都市として、毎年国内外からたくさんの観光客で賑わう、活気あふれる町です。2008 年オリンピックの開催を機に、北京市では各種のインフラが整備され、市内主要観光地では、公衆トイレやバリアフリー対応、多言語標識や駐車場等の付属施設が充実され、国内外から訪れる観光客に最大限のサービスを提供してきており、観光業の飛躍的な発展を遂げてきました。さらに、2010 年 12 月に、北京市は観光業に関する第十二次五カ年計画（2011-2015 年）を発表し、これからの五年間で観光業を市の重要な柱産業までに発展させ、観光産業の増加額が市 GDP に占める割合を 10%以上に、観光業総収入を 4000 億元に達せさせて、北京を「世界一流の観光都市」にする等の目標を立てました。

北京市は、「中国特色のある国際都市」という戦略目標をめぐり、一連の取り組みを開始しており、本文は北京の観光業に関する近年の動きを以下の五つの視点からご紹介したいと思います。

管理部門の体制改革

北京市旅遊局は北京の観光を所管する政府組織でしたが、2011 年 4 月に、北京市人民政府は「北京市旅遊局」を「北京市旅遊發展委員会」と名称を変更することを発表しました。この改名は実は組織の昇格なのです。今までの北京市旅遊局は市政府の直屬部門であり、市政府の指導を受けながら、観光分野を専門的に管理する行政部門でしたが、改名後の北京市旅遊發展委員会は北京市政府の一員にまで昇格され、観光と関係のある市場、人材、資本、自然資源を総合的に管理する政府部門と変わり、政策の面でも、他の文化、商務、交通、外事、公園管理等多部門と連携するようになりました。



北京市旅遊發展委員会の除幕式

※写真は北京市旅遊發展委員会より

<http://www.bjta.gov.cn/>

北京市旅遊發展委員会の成立は観光における統一管理体制の構築、ビザ政策の緩和促進、観光に関する資金調達及び国際協力促進等に有益で、観光業を大いに発展させ、北京の観光業は新たな発展階段へと入った印だと言えます。

社会資源の活用

北京旅遊発展委員会成立の後、「都市のすべては開発可能な資源であり、公開的な資源はすべて観光資源である」、「北京という都市自体を一つの公開的な観光地と見なすべき」という理念の下に、自然資源、文化資源の開発に続き、第三種類の資源といわれる社会資源の開発を手掛けて、成果を上げてきました。例えば、企業や社会団体に一般公開日を設けようと呼び掛け、積極的に社会資源を観光資源へ転換させてきました。中でも一番注目を浴びたのは 2012 年 1 月 1 日の天安門城楼の参観台の一般公開です。参観台の一般公開は 1988 年、天安門城楼が一般見学できるようになってから初めてのケースで、当日 5000 人以上の観光客が駆け付け、天安門広場を見下ろす壮大な眺めを楽しみました。それ以後、天安門城楼の参観台は月に 1 日を一般公開日とすることを決めました。北京市旅遊発展委員会は、このように北京独特の社会資源を一般観光客に公開することは、首都の各資源を観光市場に生かし、多角度で首都を PR する有効な手段であるとしており、今後大学や大手企業の公開も大いに進める予定となっています。



天安門城楼城楼の参観台を賑わっている観光客

※写真は新華ネットより

http://news.xinhuanet.com/society/2012-01/02/c_111354874.htm?prolongation=1

観光業の産業化

北京市旅遊発展委員会は、観光を一つの事業としてではなくて、一大産業という位置づけで、発展方式の転換を加速してきました。まず第十二次五カ年計画期間中、毎年 10 億元の専門資金を観光市場に投入し、それに加え、積極的に民間資本、国際資本をも導入し、観光プロジェクトの開発や公共施設の整備に力を入れる方針をとっています。2011 年の北京市の観光関連総収入は 3210 億元で 3000 億元を突破し、16%以上の伸びを示しました。さらに 2011 年の北京市の観光関連のショッピングと飲食店の販売額は社会全体の販売額の 25%にも達しています。

2012 年に入ってから、北京下町商業施設を体験する前門エリア、古い北京の街並みを体験する什刹海-南锣鼓巷エリア等の観光産業プロジェクトを含めて、合計 800 件近くの

プロジェクトが実施され、投資総金額は 3000 億元に達しました。

プロジェクトの開発と同時に、北京市旅遊発展委員会は観光客向けの新商品開発にも力を入れています。「北京で必ず買う・見る・食べるもの」、「北京ギフト」などといったテーマを決めて北京ブランドのイメージアップに取り組み、観光消費市場の潜在力を深く掘り出そうとしています。

また、2011 年 12 月に、北京旅遊発展委員会は「ハイレベル観光産業連盟」を設立し、「アジアトップクラスのビジネス・コンベンション観光都市」を目指して、ハイレベル観光を重点的に発展することを決定しました。

他の産業との融合

北京市旅遊発展委員会は観光業とその関連産業との融合を重視しています。まず農業との融合では、郊外農家観光プロジェクトを促進し、関係部門と連携して『北京市郊外農家観光発展を加速する意見』という文書を発出しました。次に、製造業との融合では、大型観光施設・観光用品・観光商品等観光に関する製造基地の建設を検討中です。教育、文化との融合では、『文化と観光産業との融合発展に関する意見』という文書を間もなく発表する予定となっています。

地域間の連携

北京市は北京—上海間新幹線開通にあたり、新幹線沿いの天津、済南、南京、上海等七つの都市と連携して、北京上海間新幹線沿線都市観光連盟を設立し、また、長江デルタ地域の都市と観光協力関係を構築し、他の地域との共同発展を求めてきました。

一方、北京は「中国を訪れる外国人観光客に最も人気ある都市」を目指して、国際連携も重視しています。すでに、南アフリカ、ブラジル、インド等の国の首都と観光協力関係を結んでいます。

2011 年の春、北京市長の呼び掛けで、国内外の有名な観光都市が北京で「世界観光都市連合」を設立しました。世界観光都市連合は恒久的に本部を北京に置くとしており、北京に国際観光機関の本部が置かれるのは初めてのことです。(同連合会に加盟した中国国外の都市はロサンゼルス、ウィーン、モスクワ、バルセロナ、ベルリン、札幌など 20 カ所、中国国内の都市は天津、重慶、広州、成都、南京、武漢など 17 都市。) 2012 年 6 月に第 1 回世界観光都市北京香山観光サミットが開催され、開催期間中に、世界観光都市連合会が主催する「世界観光都市博覧会」などのイベントも行われ、北京の国際大都市としての風貌を世界にアピールしました。



第 1 回世界観光都市北京香山観光サミットの会場の様子

※写真は北京市旅遊ネットより

<http://www.visitbeijing.com.cn/news/n214750379.shtml>



香山観光サミットでスピーチする北京市旅遊發展
委員会主任である魯勇氏

※写真は北京市旅遊ネットより

<http://www.visitbeijing.com.cn/news/n214750379.shtml>

以上のように、北京市は観光業を勢いよく発展させており、さらに、2012 年の 9 月に、北京市は国家旅遊局に「国家観光総合改革テスト地域」に指定され、全国初の省レベルのテスト地域として、全面的に観光業の総合改革を推進していくと見られており、今後また一連の政策が打ち出されていくはずです。引き続き、北京の観光改革に注目しながら、2015 年に「世界一流の観光都市」になる北京の姿を見守りたいと思います。

(張 しん 調査員)

CLAIR